

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和4年3月

事業所名：仙台市サンホーム

在籍保護者数 36名 回収数36枚 回収率 100%

必修項目 ○	チェック項目	はい (%)	どちらともいえない (%)	いいえ (%)	わからない (%)	未記入	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	30 (83%)	6 (17%)	(%)	(%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが玩具を投げると、他の子にぶつかりそうになり怖いときがある。 クラス内で身体能力が低いと違う。歩けない子のマットスペースは必ず残してほしい。 十分に確保されていた。 走り回ってしまうことがあるので、子ども同士ぶつかってしまわないかははらする。 走り回りたい子ども同士、よくぶつかってしまうくらい、少し狭いと感じた。 人数に合わせたスペースだと思う。 静と動どちらの遊びも楽しめる十分なスペースと、コーナーづくりがされている。 少ない人数からスタートして途中から人数が増えると狭い。子どもたち同士がぶつかり、神経を使う。 子どもによって、走り回る事が好きな子にとっては狭いと思う事がある。 子ども8人、保護者8人、先生3人の全員が揃うと狭く感じる。 現状8人位で限界かと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定員1日30名のため1クラス10名Maxで3クラス編成である。母子のほかけ先のないきょうだい児も密めると保育室内の人口密度が高くなる。動きの大きな子どもたちが多くなると転倒などのリスクも高まるため、スタッフが細心の注意を払っている。より安全な療育活動のためには、園庭の活用頻度や散歩回数の増加など活動プログラムの工夫を実施していく。
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	30 (83%)	5 (14%)	1 (3%)	(%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士でぶつかりそうになるので、先生がもう一人いてほしい。 先生方はゆっくりと話を聞いてくれるが、忙しいので申し訳なくなる。 一人ひとりに合わせてくれる。 手厚くみてもらえ。安心できる。 充分だと思ふ。 作業療法士、言語聴覚士の専門性のある職員を増やした方がよい。 もっと専門的な先生に入ってほしい。OT、STの先生を入れてほしい。 欲を言えばもう一人先生についてもらえたら嬉しいと思う時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染予防の観点から少人数に分割し部屋を使わざるをえない場合はスタッフの人員配置を工夫している。 限られた人員体制の中では、療育・支援スキルの向上とチームアプローチに努め安全性を確保している。衝動性や活動性の高い児童性については、フリー職員を加配し、特性に応じた個別課題の工夫やバージョンを活用した空間の分離などに取り組んでいる。 スタッフの人材教育については、年間を通しての研修やチームアプローチにより専門性の向上と療育の質の担保に努めている。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	32 (89%)	2 (6%)	(%)	1 (3%)	1 (3%)	<ul style="list-style-type: none"> 園に到着してから、やることの順番、設定遊びに入る前のお片付けの時に流れる音楽など決まっている。 本人にわかりやすい環境になっていたと思う。 子どもの目線でも、部屋を十分に見渡すことができる。また、写真等視覚的な情報もあり分かりやすい。 絵や写真、個人のイラスト記号等で親にも分かりやすくして良い。 適切だと思う。 もっと教室に置く遊具のバリエーションを増やし、刺激を与えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 園々の特性に応じた視覚的な教材（カードやスケジュールの提示）や空間の構造化などを取り入れ、わかりやすく、過こしやすい環境の工夫に努めている。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	33 (92%)	3 (8%)	0 (0%)	0 (0%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> 床が冷たいです。 活動に合わせて色々と変化する。 とても清潔。活動ごとに仕切りを使用した空間づくりがされている。 手洗い場や教室、トイレ等いつもキレイが良い。 適切だと思う。 遊びに合わせてバージョン等で区切られているのが良い。 冬、室内の温度が少し寒い時もある。 冬は寒くて療育に集中できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 療育開始前後に清掃、消毒を実施している。特に新型コロナウイルス感染予防のために、接触するドアやテーブル、遊具や玩具などについては毎日アルコール消毒を実施している。 床冷えについては、予備がつき保育室から床環境工事に着手し、順次検討している。
適切な支援の提供	⑤ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画Ⅱが作成されているか	34 (94%)	(%)	1 (3%)	(%)	1 (3%)	<ul style="list-style-type: none"> 良く子どもを見た上で作成されている。 短期間で子どもを丁寧に観察し、内容の濃い支援計画を立ててもらえた。 訂正箇所がひとつも無く、とても良く考えられていた。 毎回の活動で個人又は全体に対しての結果や課題がわかりにくい。個別プログラムはきちんとされている。 	<ul style="list-style-type: none"> より適切なニーズや課題の把握やアセスメントのために、療育会議の中で職員の共有を図り、経験値の違う職員の資質向上にも役立てている。
	⑥ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供（公費支援）」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」でその支援内容から子どもの支援に必要と思われる項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4 (%)	(%)	(%)	(%)	2 (%)	<ul style="list-style-type: none"> 良く子どもを見た上で作成されている。 生活、あそび、対人コミュニケーションすべての項目で、様々な子どもの姿を想定した支援内容が設定されている。(2) 分かりやすく設定されていて良かった。 子どものことや、こちらから伝えたことを良く理解して、しっかりとした分かりやすい支援内容を設定している。 自分の考えとずれはなかったが、トイレトレーニングなど家庭では自分自身があわただしくて時間かけて取り組めない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の特性に応じた支援の視点や項目を明記し、具体的な療育内容の提示を行っている。また、家庭での状況をあらかじめ把握して計画に盛り込み、半年前も経過を踏まえ連続性に配慮した内容を考慮している。
	⑦ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	35 (%)	(%)	(%)	1 (%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> 少しずつ進められている。 子どもの表情やしぐさを見逃さず、気持ちを汲み取り支援してもらえている。 通い始めてまだ分からない部分の方が多いので。 個別プログラムの支援が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画の進捗については、日々の療育後の振り返りを通して確認している。また、より詳細の分析を要する場合は個別支援を通して実施している。
	⑧ 活動プログラムⅢが固定化しないよう工夫されているか。	26 (%)	7 (%)	1 (%)	2 (%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> 集団の為、設定遊びは皆同じことをやっている。子どもの障害の特性に合わせているかどうかと問われると…？ 月によって同じものがあったり、なかつたりするが問題ない。 成長に合わせて、柔軟に活動することができている。 日々新しい刺激があり、通うのが楽しい。 似たような活動が多い。繰り返して安心を与えるのはわかるのですが、絵本などは職員の技量により楽しさや満足感が変えられると思う。 季節の行事に合わせた遊びなど、様々な考えられていて楽しんでいる。 一応されているが、もっとバリエーションがあったらもっといい！ 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のプログラムは、子どもの発達段階や特性を考慮し、園々のねらいを重視して組み立てられている。保護者勉強会では、発達と遊びの関連性、感覚統合の大切さ、遊びの種類と意義、自己肯定感を育む声掛けの重要性などを伝えていく。同じ遊びをくり返し実施し、成功体験や達成感を育む、ステップアップした内容さらなる成長を引き出すなど成長過程に応じた活動内容を工夫している。保護者にもそのねらいが十分伝わるように努力していきたい。

	9	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や障害のない子どもと活動する機会がある。	5 (%)	5 (%)	12 (%)	9 (%)	5 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところないのでわかりません。(2) ・進路を選んだ際、保育園やこども園、なかよし学園に見学に行った。なかよし学園では、子ども同士のかかわる場に参加できた。 ・入園する園に引継ぎをしていただけることは知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣保育園との交流保育を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染予防のために実施することはできなかった。感染収束後に再度検討していきたい。
保護者への説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	34 (%)	2 (%)	(%)	(%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の説明で理解した。 ・丁寧な説明を受けた。 ・適切にされている。 ・説明もあったし、資料も見やすかった。 ・説明はあったが丁寧かどうかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション当日の丁寧な説明を基本としているが、情報量が多いと混乱しやすいので内容の受け止め方を確認しつつ、後日の補正説明も実施している。
	11	児童発達支援センターの「児童発達支援内容」に基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	35 (%)	(%)	(%)	(%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の説明で理解した。 ・親の声にも耳を傾けてくれた。丁寧な説明を受けた。 ・子どものことをよく見ていてくれるなど感じた。 ・適切にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容については、子どもの特性や保護者の受け止め方に配慮しながら、具体的かつ分かりやすい説明を心がけている。
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	28 (%)	1 (%)	2 (%)	1 (%)	4 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの勉強会を積極的に開催している。 ・適切にされている。 ・定期的に保護者向けの勉強会があった。 ・定期的に勉強会をやっているが、手帳についてなどの情報を教えてほしい。 ・講話だけでなくレジュメもあり、読み返すことができて嬉しい。 ・資料も見やすく説明も分かりやすくて良い。 ・勉強会はとても有益な情報だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山台主催のペアレントプログラム研修受講後の職員が「自己肯定感を育むこと」と題して保護者勉強会を実施している。次年度以降には、短縮バージョンシリーズで開催を計画している。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況、課題について共通の理解ができていくか	35 (%)	1 (%)	(%)	(%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の先生とはできていたと感じる。 ・共通理解できている。 ・朝一で伝えたことが他の先生にもよく伝わっている。 ・先生間で子どもの事が共有されていて理解があり、とても良い。 ・定期的な面談、普段の会話で出来ている。 ・適切にされている。 ・子どもの少しの変化にも気付いてくださり、安心して相談等ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の共通理解については、通常療育や面談時に丁寧なコミュニケーションを心がけている。おおむね保護者との関係性は良好と感づいているが、業務の忙しさから保護者が声掛けしにくい状況を抱えている場面も見受けらるから、フリー職員の配置などでより話しやすい雰囲気配慮していきたい。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	35 (%)	1 (%)	(%)	(%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時はすぐ話を聞いて下さって助かっている。 ・相談しやすい。 ・日頃から支援してもらえている。 ・適切にされている。 ・勉強会があるのはとてもありがたい。 ・父親にも専門家から特に療育の大切さ等、説明してもらえるとありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の療育の振り返りや随時の面談などを通して前向きな子育てへの支援を実践している。 ・今年度から公認心理師による専門的な相談も開始し、子育て環境にも踏み込んだ包括的なサポートを心がけている。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	12 (%)	9 (%)	4 (%)	7 (%)	4 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ参加したことがないので「わからない」。 ・保護者同士の活動が分からない。 ・コロナ禍で保護者の会などがあまりなかった。 ・コロナ禍なので活動がないのは仕方ない。 ・父母の会の活動は活発ではなかった。 ・父親参観またお願いしたい。 ・適切にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防に配慮して親の会は中止したが、日々の母子分離タイム時に保護者同士の効果的な交流を促している。
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	30 (%)	3 (%)	(%)	2 (%)	1 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに対応して頂いている。 ・他の先生方とも話し合っ考えてくれる。 ・個別に相談できて安心。他のママの前では言いにくい内容もある。 ・体調が悪い時、フォローあり、とても助かった。 ・適切にされている。児童発達支援事業所とやりとりをしてもらった。進路に関しては特にやりとりが丁寧だった。 ・何か困ってもその場で対応して頂けるのがとても助かる。 ・相談した際は、すぐに場を設けて対応してもらえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適度な保護者もいることから、保護者の困っている様子や表情、元気がない声、行動などが見られた場合は積極的に声をかけて積極的に努めている。療育中にクラス担任が関わることが難しい場合には主任、副主任、園長などが別室で話しを聴くこともある。 ・即答が難しい相談内容については、クラス内や主任、副主任への報告・相談をし、回答内容を明確化して、あまり時間を置かず返答していきたい。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	33 (%)	1 (%)	(%)	1 (%)	1 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも困った時すぐ対応してくれる。 ・適切にされている。 ・先生間で子どものことが共有されていて理解がありとても良い。 ・どうしたらいい？と感じたことが一度もない程、配慮されている。 ・他の方に聞かれたくない内容の相談も教室内ですることになり、もう少し配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の不安や悩みについては時間をおかず傾聴し対応するよう努力している。情報提供については、保護者の理解しやすい伝達方法（メモ書きや参考図活用など）を工夫している。 ・相談内容によっては、別時間、場所を設けるなど十分配慮していきたい。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	31 (%)	2 (%)	(%)	3 (%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のおたよりが見やすく、家族にも好評である。 ・園での情報は、おたより等を通し発信されているが、業務については分からない。 ・早い段階で作成してくれるので予定が立てやすい。 ・受給者証番号を入力すれば、教室の活動内容やふりかえりの反省や良かった所や次回の目標とかが見れるホームページからのリンク先があったら良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の園だより、2か月に1回の保健だより（子育て参考本の紹介含む）、年数回の法人広報誌を発行している。月のスケジュール（行事・遊びの種類と準備）については手渡し時に説明を加えて配布している。 ・業務自己評価については掲示やホームページで公開しているが、ホームページの存在を認識していない方もいるため公開時期も周知するようしたい。 ・人具体制や情報保護の観点から、民間同様の個別の活動内容のデータ配信サービスは現状難しいため、現状の広報誌などで丁寧に伝えていく。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	33 (%)	2 (%)	(%)	(%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・十分注意されている。 ・適切にされている。 ・おたよりの写真の顔を隠したり、十分注意が行き届いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に個人情報の取り扱いに対する承諾書を作成しているほか、文集やアルバム作成時には再度同意書に記載してもらっている。 ・保護者による園活動時の写真撮影は遠慮してもらおう周知している。
非常時等	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	30 (%)	5 (%)	(%)	1 (%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・アナウンスや防災頭巾を被ったり、具体的に子どもが身を持って体験できて良い。 ・会報やメールなどで適切に伝わっている。 ・予告なしの訓練があり、とても良い。 ・十分に説明を受けている。訓練も実施している。 ・防犯マニュアルについての説明は特に聞いたことがなかった。 ・マニュアル等拝見した事はないが避難訓練は定期的にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な避難訓練の開催、二次避難場所、地震や火災発生時の行動については、オリエンテーション時に具体的に避難経路図を提示して説明をしている。 ・町内会の災害時対応の会議に出席し、地域防災の役割や段取りを確認している。 ・12月以降の入園者においては周知が十分でなかったため、次年度以降はより丁寧な周知を心がけていきたい。 ・令和3年度は避難用スリッパや非常時の発電機を新たに整備した。

の対応	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	35 (%)	(%)	(%)	1 (%)	(%)	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の避難訓練が実施されている。 ・予告なしの訓練がありとても良い。 ・定期的に訓練してくれているので安心。 ・年に何度も避難訓練をしている。 ・避難訓練が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防の立ち合いによる総合訓練、児童館と合同の不審者対応訓練、感染症（ノロウイルス等）による嘔吐処理訓練などを実施している。 ・不審者対応等防犯研修では「さすまたの使用法や護衛術」などもスタッフ全員が学んだ。 ・サッシ窓には防犯フィルムを貼った。 ・職員全員が年1～2回子どもと大人の救急蘇生とAEDの操作訓練を実施している。 ・緊急時にAEDを借用できるよう近隣機関と連携を密にし、万が一の準備をしている。 ・災害時を想定し、災害用食品や飲料、防寒用品などを常備している。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	31 (%)	2 (%)	(%)	(%)	3 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・「サンホームだよ」と声を掛けると笑顔になる程、楽しみにしている。 ・その日の気分によって違うが、楽しみにしている。 ・楽しく通っている。 ・毎回帰りの道で「楽しかった」と言っている。 ・いつも「楽しかった!」と言っている。 ・大好きな先生やお友達がいって、楽しく通っている。 ・いつも楽しみに自分で上着の準備をしている。 ・いきたくないと言った日は一度もないくらい毎度楽しみにしている。(2) ・親子共々、とても楽しく安心できる場所だった。 ・まだ疲れて眠くなる日も多いが、とても楽しく通っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい場所や人に慣れるのに時間を要する児童も多いため、その特性に配慮し、楽しく遊べる環境づくり、楽しさを共有するかわり、クラス担任との信頼関係の構築などを重視して「楽しいから、また来たい。」という意欲や動機を促す支援をしている。また、興味関心のある遊びを通して得意なことや苦手なことを保護者と共有して、わかりやすいツールを活用、工夫して見通しをもった遊びができるようにしている。
	23	サンホームの支援に満足しているか	30 (%)	2 (%)	1 (%)	(%)	3 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・都度相談できる環境で本当にありがたい。 ・サンホームの支援のおかげで心が落ち着いている。ありがとうございます。 ・通うことができとても嬉しく思う。 ・子どもの成長が感じられ、満足している。(2) ・人慣れ場所慣れが難しくサンホーム以外に行く場所がない。サンホームの日数が少ないと感じる。 ・親子通園としての目的は達成している。遠足や運動会があれば、もっと楽しめたらと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね満足感をもって通園していることから今後も丁寧、かつ保護者の心情をも汲み取ったかわりを心がけていきたい。保護者は心の葛藤を抱えて入園し、卒園時にはありのままのわが子を受け入れ、前向きな子育てができるようになっていく。子どもにも成長を実感し、それを自覚・表現できるような保護者支援を大切にしていきたい。

(注釈)

I 「本人にわかりやすく構造化された環境」は、この部屋で何をするのかを示せるように、朝の身支度や遊びのスペースをパーテーションで区切るなど、子ども本人にわかりやすくすることです。

II 「児童発達支援」は、児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは児童発達支援センターの児童発達支援管理責任者が作成します。

III 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障害の特性や課題等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

IV 「ペアレント・トレーニング」は、保護者が子どもの行動を観察して障害の特性を理解したり、障害の特性を踏まえた褒め方を学ぶことにより、子どもが適切な行動を獲得することを目標とします。